

鹿柴

王

維

空山 人 見 但 人 語 の 響 を 聞 く  
 返 景 深 林 に 入 り 復 青 苔 の 上 を 照 ら す

【作者】王維（六九〇〜七五九年）一説に（七〇一年？〜七六一年）。盛唐の詩人。字は摩詰。太原（現・山西省祁県東南）の人。九歳で詩文を作ることを知り、草書や隸書に巧みであり、また音律にも通じていた。進士となり、大樂丞となった。晩年は仏教に傾倒した。

【語釈】\*鹿柴とは：鹿を囲うための柵を意味しますが、ここでは王維の別荘があった地名を指します  
 \*空山：：人気のないひっそりとした山 \*返景：：夕日の光

【通釈】シーンと静まりかえった山には、人かげひとつ見えない。だがどこからともなく人の話し声が聞こえてくる。夕日の光がふかい深い林の中に差し込んで、木の根もとの青い苔をてらしている。